

展 示

「ニュートンからピーターラビットまで ～大学図書館のお宝～」

本展示会は「図書館と県民のつどい埼玉2008」に連携・初参加して埼玉県大学・短期大学図書館協議会(SALA)が行ったものである。大学図書館の対象分野の広さと奥深さを感じていただけたらと企画したものであり、SALAメンバーの内、6つの図書館の「お宝」を紹介した。展示会は朝日新聞(2008年11月1日朝刊)にも紹介された。終日盛況、多方面から多くの反響が寄せられた。

(展示概要)

埼玉大学

埼玉大学の展示は全国初公開の「アイザック・ニュートンの歴史書『改訂古代王国年代学』」と「『シュムペーターの安井琢磨宛書簡』の写し」の2つ。



「アイザック・ニュートンの歴史書『改訂古代王国年代学』」

本歴史書は、ニュートンの死の翌年、ニュートンの姪夫妻が出版した初版の現物。またニュートンについて経済学者のケインズが「彼は最後の魔術師であり、最後のバビロニア人で、またシュメール人であり、(中略)最後の偉大な人物であった」と記述している『ケインズ全集第10巻』などを出品。

「『シュムペーターの安井琢磨宛書簡』の写し」
本書簡は、訳者である木村健康、安井琢磨からの書簡に対する返信で、埼玉大学経済学部資料室内に設置されている安井琢磨文庫の中でも第一級の価値を有する資料。また、シュムペーターの自著であり、木村健康、安井琢磨により翻訳された『理論経済学の本質と主要内容』も出品。

文教大学越谷

文教大学越谷図書館からは、「文部科学省(旧文部省)検定済教科書」を出展。

文教大学は私立大学で初めて教員養成課程を設けた大学であり、そこに付属する図書館も、教育関係資料の中で、教科書については重要な収集対象と位置付けてきた。

今回は、小学校教科書について、未整理のものも含めて明治から大正、昭和、現行のものまで幅広く出展し、来場いただいた皆さんに直接手にとってご覧頂くようなかたちをとった。

昭和のものについては、来場された方ご自身が小さい頃に実際使ったものもあったようで、大変懐かしいとおっしゃってくださった。教科書については、誰もが思い出があるもの。学習、研究資料として学生、教員の利用に供するとともに、歴史的資料として、多くの方にご覧頂く機会を今後も作っていきたいと考えている。



聖学院大学

聖学院大学の展示は、「BIBLE 和訳聖書の歴史」と「ひらめきときめき図書館さがし」の2つ。



「BIBLE 和訳聖書の歴史」

F. ザビエルによって日本に伝えられたキリスト教は、キリシタン時代、鎖国・禁教時代を経て、明治期に広く伝道。その伝道を支えたのは宣教師たちの情熱とそして翻訳された「聖書」。カタカナから、ひらがな、そして漢字へ・・・

翻訳委員会社中訳『新約聖書路加傳』や『印刷新約全書』など、実際の資料に手を触れ、聖書の歴史を感じていただいた。

「ひらめきときめき図書館さがし」

聖学院大学図書館情報学課程の授業「図書館学演習」では、情報社会や図書館に関する調査研究を行っている。2007年度は「専門図書館」をテーマに、子どもたちにも分かりやすい解説書をつくらう！と「からくり絵本」を作成。

学生たちが作った、図書館と子どもたちを結ぶこの「からくり絵本」も本大学の宝物。当日は、展示の他、同じものを配布し、実際にその場で作っておもしろさを味わっていただいた。

大東文化大学

大東文化大学では、3部門の紹介を行った。



『第59回読売文学賞研究・翻訳賞受賞作品』の紹介

本国がインドネシアとの親交が深いこともあり、多くの方々にこの長編小説を紹介したく本学国際関係学部 押川典昭教授がインドネシアの作家プラムディヤ・アナンタ・トゥールの「人間の大地」四部作（「人間の大地」「すべての民族の子」「足跡」「ガラスの家」）を翻訳した。その受賞作品である翻訳本と原書を出展した。

「本学の蔵書の特色のひとつである『アジア諸国の言語コレクション』の紹介

ウルドゥー語、ヒンディー語、アラビア語、ペルシア語、タイ語の原書を出展した。

「今回ブースのメインとした『大東文化大学ビートルクスポーター資料館』の紹介

資料館のパンフレット配布と図書館が作成した館内を紹介したスライドショーをパソコンで上映した。

本資料館は、平成18（2006）年4月2日埼玉県こども動物自然公園内の一角にオープンし、入館者は現在52,000人を越えている。

英国湖水地方にあるヒルトップ農場を家屋の大きさや庭、玄関、正面の階段などをできるだけ忠実に再現しており、館内には初版本（1902年）を中心に約150点の資料を展示している。

展示資料については、「手のひらサイズの絵本 24 冊」（石井桃子氏、中川李枝子氏、間崎ルリ子氏 3 名による訳本）を出展した。

国立女性教育会館

国立女性教育会館は、平成 20 年 6 月に開設した女性アーカイブセンターの所蔵コレクションの中から、「奥むめおコレクション」のアルバム写真、「稲取婦人学級資料」の複製資料を資料説明のパネルとともに展示した。

奥むめお（1895～1997）は、戦前・戦中・戦後を通して暮らしに根づいた女性運動を展開し、日本の消費者団体の草分けである主婦連合会初代会長としても有名である。展示された「10 円牛乳運動」や「おしゃもじ」の写真に「懐かしい」との声が聞かれた。

稲取婦人学級は昭和 29～31（1954～1956）年度に静岡県稲取町（現・東伊豆町）で行われた実験婦人学級である。

今回は、生活改善をテーマにした学習の記録から、「昨日一日をどう過ごしたか」「一週間の支出分類表」など手書きのグラフや図表、十数点の複製を自由に手に取って見られるよう展示した。労働時間の長さや子供の小遣いの金額など、自分たちの現在の生活と比較する親子連れの姿も見られた。

展示資料はいずれも国立女性教育会館女性アーカイブセンターで閲覧可能。また、一部資料は、女性デジタルアーカイブシステム (<http://w-archive.nwec.jp/>) で画像の公開もしている。

女子栄養大学

本学図書館所蔵「食に関する西洋古版本コレクション」、以下 3 点、6 冊を展示。



「ハートの『食養論 初版』1633 年刊」
医師が執筆した食事と健康の関係を論じた
最初の英語文献

「ムノンの 18 世紀フランス料理文献 4 種」
『家庭料理 初版』1746 年刊
『料理長の技術 初版』1749 年刊
『宮廷料理 初版』1755 年刊
『料理と健康 初版』1758 年刊

「ジョセフの『食用及び有毒キノコ事典』」
1800 年代フランス各地に生息していた
「きのこ」の解説書

「『西洋古版本所蔵目録』2008 年刊行」
制作：大学図書館